

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害者に対する支援と障害者自立支援制度Ⅰ（就労支援サービスを含む） <small>Support for the Challenged Person and Support System for Independence of the Challenged Person I (including supporting services for employment)</small>		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
新井文子	福祉棟2階	初回授業にて説明する。		授業中に指示します
授業の概要				
障害の理念と福祉の基本理念を歴史的に概観し、各障害の理解から生活障害を把握したうえで、障害福祉制度（各障害の根拠法および関連法規等）について学習する。				
授業の目標				
①障害および福祉の理念が説明できるようにする。 ②各障害の種類と特性および根拠法が説明でき、関連法規を列挙できるようにする。				
授業の方法				
講義科目であるが、個人またはグループワークも取り入れる。				
学習の成果（学習成果）				
①障害福祉の理念を説明することができる。 ②各障害の理解から生活障害を捉え、関連する法規とつなげることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスにそって）、障害とは何か、障害の分類と根拠法			
第2回目	障害の概念（ICIDHとICF）			
第3回目	障害福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、QOL）			
第4回目	障害者福祉制度の発展過程（人権尊重と権利擁護含む）			
第5回目	障害の理解① 各障害の種類と特性 個人またはグループワーク（課題は別途説明）			
第6回目	障害の理解② 各障害の種類と特性 個人またはグループワーク			

第7回目	障害の理解③ 各障害の種類と特性 個人またはグループワーク (レポート1 提出：第8回目発表終了後)	
第8回目	障害の理解④ 各障害の種類と特性 発表、まとめ	
第9回目	生活障害と生活実態 (各種データからの概観、障害施策の体系) 小テスト① (筆記試験形式)	
第10回目	障害に係る法の理解① 社会福祉法、障害者基本法、身体障害者福祉法	
第11回目	障害に係る法の理解② 知的障害者福祉法	
第12回目	障害に係る法の理解③ 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	
第13回目	障害に係る法の理解④ 発達障害者福祉法	
第14回目	障害に係る法の理解⑤ 社会福祉専門職と根拠法 (社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士)	
第15回目	障害者福祉制度のまとめ、小テスト②	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	テキストや配布資料等を持参し、自主的にメモしている。個人またはグループワークに積極的に取り組んでいる。
レポート	10%	各障害について調べまとめる。S：他者にもわかるようにまとめている。
調査報告書		
小テスト	60%	2回実施 ①第2回目～第8回目までの知識の確認 ②第10回～第14回目までの知識の確認 (各30%) 社会福祉士国家試験に準じた選択式である。持ち込みを不可とする。
試験		
発表内容 (態度含む)	10%	発表原稿を作成し、発表の練習をしている。
その他		
教科書と参考図書		
教科書 ①新・社会福祉士養成講座14 第5版「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」中央法規出版 ②新・社会福祉士養成講座18 第3版「就労支援サービス」中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
新聞記事やニュース等から障害に関する情報を得るようにして、専門用語の理解に努めてほしい。		